競　技　注　意　事　項

1．競技規則について

　 本大会は2022年度日本陸上競技連盟競技規則及び本大会の申し合わせ事項によって実施する。

2．練習場及び練習について

（1） 練習は、補助競技場および本競技場の許可された場所を使用すること。室内練習場の使用は禁止。マーシャルの指示に従うこと。

（2）補助競技場での投擲練習については、砲丸投のみ指定されたピットで行うことを認める。その他の投擲種目は危険防止のため禁止とする。

（3）補助競技場での練習は、1~3レーンは周回　4~6レーンは直線(スタート)　7,8レーンはハードルとする。

　　　＊5月1日(日)は8:45~10:30までの間、競技のため練習禁止とする。

3．招集について

（1）招集方法

（ア）中学生以上の競技者はプログラムに指定された時間までに、各競技場所に直接集合し、出発係の最終確認を受ける。

（イ）小学生の競技者は、招集完了の時刻までに競技者係(第一ゲート付近)に集合すること

　　　競技者係がビブスを確認した後、集合場所に引率する。

（ウ）代理人による招集最終確認は原則として認めない。

（2）競技者係の場所は、競技場第１ゲート付近（100mスタート付近）に設ける。

4． アスリートビブスについて

（1）全ての競技者はユニフォームの胸・背に確実に付ける。跳躍競技の競技者は、胸又は背のどちらかに付けるだけでよい。

（2）トラック競技に出場する競技者は、各自用意した腰ナンバーを短パンの右腰やや後ろに付ける。

(オープンレーンの競技は競技者係で貸し出す)

5．競技の抽選及び番組編成について（レーン順、試技順）

（1）800mより短いトラック競技(小中学生は400m)は競技運営上1~9レーンを使用する。レーン順・フィールド競技の試技順は、プログラムに記載した順による。

（2）トラック競技において、決勝進出者を決める場合、その最下位で同タイム者が出たとき（以下同タイム者という）は、下記の方法で決定する。

①100m競技において次のラウンドへの進出者を決める場合、写真判定員主任が0.001秒単位の実時間を判定して出場者を判定する。それでも同成績者がありレーンが不足する場合は、同成績者または代理人によって抽選する。なお、アナウンス後15分を経過しても当該競技者あるいは代理人が大会総務に来なかった場合は、主催者が代行する。

6．競技について

（1) 競技運営上、競技日程及びピット・短距離走の走路をバックストレートフィニッシュに変更することがあ

る。その際、招集開始時刻の1時間前には放送を通じて連絡を行う。

（2）短距離走のフィニッシュ後は、競技者の安全のために自分のレーン（曲走路）に沿って走り終わること。

（3）スタートの合図は英語で行い、各レースでの不正スタートをした競技者は1 回で失格とする。

　　　＊小学生の合図も英語で行い。不正スタートは旧ルールを適用する。

（4）リレーオーダー用紙は、予選・決勝とも第1組招集終了時間の1時間前までに競技者係に提出する。

（5）トラック競技では予選上位16位までの記録で決勝へ進出する種目もある。その際、9位から16位をB決勝として実施する。各種目B決勝を先に行いA決勝を後に行う。表彰はA決勝出場者からとする。

（6）5000mの1組目は、男女同時スタートとする。

（7）5000mWは、男女同時スタートとし、競技運営上、男子30分．女子35分以内に4600mを通過出来なかった者は、競技を中止させ、失格とする。

（8）棒高跳の競技者は、自分の希望する支柱の位置を所定の用紙に記載し、跳躍審判員に届け出る。

（9）フィールド内での投てきおよび跳躍の練習は、必ず審判員の指示に従う。競技中フィールド内での練習は絶

対に行わないこと。

(10)　リレーに出場する競技者は、当該競技審判主任の判断により、フィールド競技について試技順を変更することができる。試技順を変更しても試技時間に間に合わなかった場合は、「パス扱い」となる。

(11) 競技結果や番組編成は掲示しない。大型映像およびアスリートランキングにて確認すること。

7.フィールド競技

（1）走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 種　　目 | 練習 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |  |
| 男子高・一走高跳男子 | 1m45 | 1m50 | 1m55 | 1m60 | 1m65 | 1m70 | 1m75 | 以降3cm刻み |
| 男子中学走高跳 | 1m20 | 1m25 | 1m30 | 1m35 | 1m40 | 1m45 | 1m50 | 以降3cm刻み |
| 女子高・一走高跳女子 | 1m25 | 1m30 | 1m35 | 1m40 | 1m45 | 1m50 | - | 以降3cm刻み |
| 女子中学走高跳 | 1m10 | 1m15 | 1m20 | 1m25 | 1m30 | 1m35 | - | 以降3cm刻み |
| 男高・一棒高跳 2m80 3m000 3m20 3m40 3m60 3m80 4m00 以降10cm刻み | 2m80 3m000 3m20 3m40 3m60 3m80 4m00 以降10cm刻み | 3m00 | 3m20 | 3m40 | 3m60 | 3m80 | 4m00 | 以降10cm刻み |
| 女高・一棒高跳 | 1m80 | 2m000 | 2m20 | 2m40 | 2m60 | 2m80m80 | 3m00 | 以降10cm刻み |
| 中女・中男棒高跳  | 1m60 | 1m80 | 2m00 | 2m20 | 2m40 | 2m60 | 2m80- | 以降10cm刻み |

　　　＊気温、天候などの状況によって審判長の判断で変更する場合もある。

（2） 第1位決定のバーの上げ下げは、走高跳で2cm、棒高跳では5cmとする。天候その他の条件によって、変更する場合は当該審判長が決定する。

8．競技場内への入退場について

（1） 競技場への入退場は全て、競技役員の指示により行う。競技者以外はトラック・フィールドに立ち入ることはできない。

（2）トラック競技における競技者は、第2ゲートから退場し、メインスタンド前は通らない。

＊バックストレートフィニッシュの場合、ゴール後はそのままトラックを進み、第1ゲートより退場して、競技場玄関前を通り、第2ゲートより入場してスタート地点に戻る。(バックスタンドは通らない)

（3）フィールド競技における競技者は、当該競技役員・マーシャルの指示に従い退場する。

（4）選手同士の密を避けるため、選手への付き添い等は行わない。

9．競技用具について

 （1）競技に使用する用具は全て、主催者が用意したものを使用する。ただし、棒高跳用ポールは個人所有のものを使用する。ポールについては、その競技開始前に跳躍場で跳躍審判員の検査を受け、許可されたものを使用できる。（やりも個人所有のものを認める。ただし、用器具庫前にて競技開始1時間前迄に検定を受けること｡）

 （2）フィールド競技で、助走に使用するマーカーは主催者が用意する。使用し終わったら、競技者自身で取り外し、所定の場所に返納すること。(マーカーの数は既定の数を超えないこと。)

（3）競技で使用する滑り止め（炭酸マグネシウム等）は各自で用意すること。競技場では用意しない。

10．競技用靴について

（1）競技場は全天候型舗装であり、スパイクピンの数は11本以内で、長さは9mm以内とする。走高跳とやり役では12mm以内とする。

（2）トラック種目で、厚底シューズ(ソール厚25mmを超える物)は使用できない。

11．表彰について

（1）各種目3位までの入賞者には、賞状を渡す。

（2）各種目の表彰は行わない、(賞状は、エントランスホールより自ら持ち帰る)

12.応急処置について

　大会期間中に競技場で発生した傷害や疾病は、主競技場内の医務室で応急処置を行うが、その後の責任は負わない。

13．コロナウィルス感染拡大の防止にあたり、次の項目を遵守すること。

（1）本競技会は、コロナウィルス感染拡大防止の観点より、競技者はサイドスタンドとバックスタンドを使用し、競技者のトイレはバックスタンドのものを使用する。

　　　メインスタンドは2階プロムナードに設けられた入り口から許可を受けた観客のみ入場できる。

　　　＊メインスタンド入場の際は検温・手指消毒を行ったのち、所定の届け出をして、リストバンドを着用して入場すること。

（2）出場する競技者は所定の体調管理ﾁｪｯｸｼｰﾄを大会総務まで提出すること。(チームの場合はまとめて提出)

（競技会一週間前から記入し、受付時に団体単位で提出。用紙は札幌陸協HPよりダウンロードして使用）

（3）各団体代表者は所属選手の健康状態の把握に努め、異常がある場合は直ちに対応し、主催者に報告すること

　　　※主催者の指定する待機場所を使用すること。

（4）体温が平熱を大きく超えていたり、体調がよくなかったりする場合には自主的に参加を見合わせること。

（5）同居家族や知人に感染が疑われる方がいる場合には自主的に参加を見合わせること。

（6）過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地方な等への渡航または当該在住者との濃厚な接触者がある場合は自主的に参加を見合わせること。

（7）必ずマスクを持参すること。（運動時以外はマスクを着用すること）

（8）こまめな手洗いや洗顔などを実施すること。（主催者が石けんを設置する）

（9） 用具(砲丸　ハンマー　やりなど)使用後は手洗いまたはスプレーで除菌をすること。

(10) ウォーミングアップは個別に行い、「密」をつくらないよう心掛けること。

(11) 運動中、痰やつばを吐くことは極力行わないこと。また、ゴミはすべて持ち帰ること。

(12) どの場面においても、他の競技者、競技役員との距離をできるだけ確保すること。

(13) 大きな声での会話や応援はしないこと。拍手での応援が望ましい。

(14) 各チームは待機場所のスペースにゆとりを持たせるよう努め、できる限り密を避けること。

(15) テントを使用するチームは密閉状態にならないように留意し、換気を心がけること。(雨天時でも30分に5分は換気すること)

(16) 飲食については周囲の人となるべく距離をとって、対面を避け、会話を控えること。

(17) タオルの共用、ドリンクの回し飲みはしないこと。

(18) 団体代表者は、選手の競技場滞在時間が短くなるよう配慮すること。

(19) 競技会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無などを報告すること。

(20) 感染予防のために主催者が決めた他の措置の遵守、主催者の指示に従うこと。

(21) 大会主催者は競技会に関わる全ての人の感染に対するいかなる責任も負わない。

14．開門及び本競技場開放時間について

(1) 各駐車場　　　　　　　6:00開門　　競技役員は第2駐車場をご利用ください。

(2) 本競技場・補助競技場　6:30開門

（選手のために開門するゲートは第１ゲ－ト・第２ゲ－トのみとする。

 (3)　メインスタンドは観客席として使用するため、選手は使用できない。(小学生を除く)

※３密を避けるため開門するまでゲートの前には集まらないこと。

※お願い　開門後、会場設営を行うので、顧問の皆様のご協力をお願いします。

(4) 本競技場開放時間

7:00～8:30　3日目は9:00~9:45使用しない直線路、9:45~10:30は屋内走路の使用を認める。

15．その他

（1）競技場内には規定外の商社名・商品名を付けたスパイク袋またはバックを持ち入れてはいけない。

（2）競技の進行上、競技開始時刻が変更になる場合があるので、放送に注意すること。

 （3）トラブル防止のため、競技場スタンドに撮影禁止区間を設ける。(撮影禁止区間および撮影を制限する時間帯はプログラムを参照すること)

 （4）テント設置の場合は本競技場敷地内または、補助競技場内とし、公園内には設置しないこと。設置の際

各自・各チームで責任をもって、突風でテントが飛ばされたり、倒れたりしないよう確実にロープ等で

固定すること。また、映像装置のカメラ付近への設置はしない。（会場図参考）

 ※競技１日目終了後、希望するチームにはテントを第3ゲート下の倉庫やバックスタンド下のダッグアウトにて保管することができる。但し、自己責任にて保管すること。

（5）ゴミの始末については、各自・各チームで責任を持って行い、競技場にはいっさい捨てないこと。

（6）各団体責任者は、事前に用意した【1.札幌陸上競技フェスティバル　競技会前／提出用】体調管理チェックシートをまとめて、速やかに大会担当総務員へ提出すること。競技会当日の施設利用申込書の用紙は各団体(チーム)で保管し、問い合わせのあった場合には応えられるよう整理しておくこと。

(7)　自家用車での送迎については、近隣の住民の方々に迷惑となるので競技場周辺の路上で駐停車はしないこと。